

材料の力学 1 Step 1 第 6 回演習問題 (2021/5/25 実施)

- [1] 平面応力状態にある十分に薄い弾性体において, 図 1 のように x - y 座標系から反時計回りに 60° 傾いた n - t 座標系に沿う正方形微小要素を考える. 薄い弾性体に対して x 方向に引張応力 5σ , y 方向に圧縮応力 9σ が作用している. 弾性体の縦弾性係数を E , 横弾性係数を G , ポアソン比を ν として, 以下の設問に答えよ.

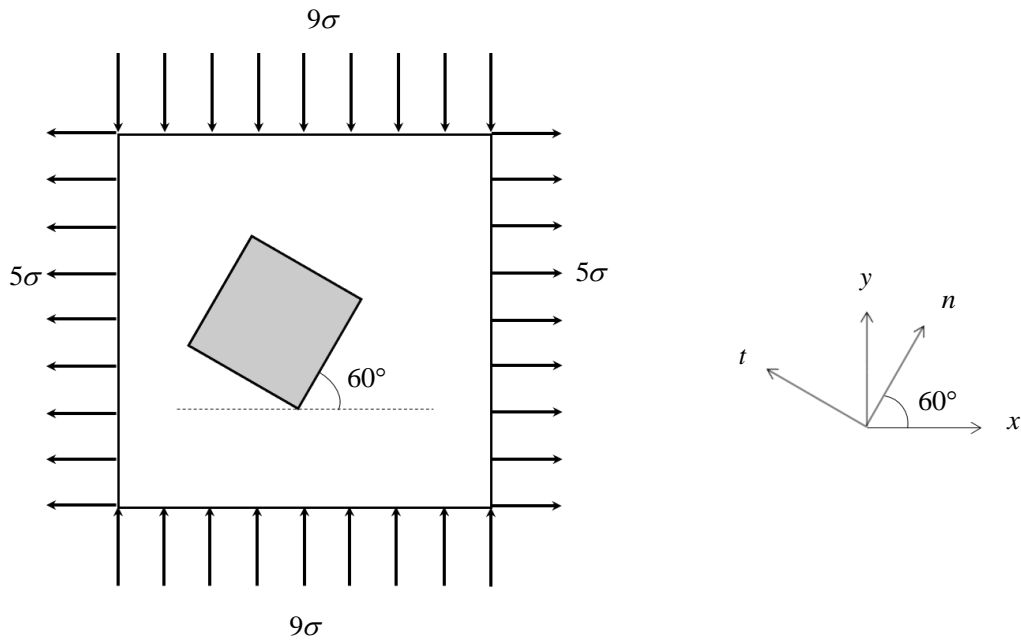


Fig. 1 平面応力状態にある弾性体.

- (1) x - y 座標系における応力テンソルからモールの応力円を描き, その中心と半径を求めよ.
- (2) (1)で描いたモールの応力円より, n - t 座標系における応力テンソル $[\sigma_{ij}]$ を求めよ.
- (3) x , y 方向のひずみ ϵ_x , ϵ_y とせん断ひずみ γ_{xy} をそれぞれ σ , E , ν を用いて表せ.
- (4) x - y 座標系におけるひずみテンソルからモールのひずみ円を描き, その中心と半径を求めよ.
- (5) (4)で描いたモールのひずみ円より, n - t 座標系におけるひずみテンソル $[\epsilon_{ij}]$ を求めよ.
- (6) n - t 座標系におけるせん断応力 τ_{nt} とせん断ひずみ γ_{nt} の関係を踏まえ, 横弾性係数 G を E , ν を用いて表せ.

[1]

(1) x - y 座標系における応力テンソルからモールの応力円を描き、その中心と半径を求めよ.

図から, x - y 座標系における応力テンソル $[\sigma_{ij}]$ は次式で表される.

$$[\sigma_{ij}] = \begin{pmatrix} \sigma_x & \tau_{xy} \\ \tau_{xy} & \sigma_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 5\sigma & 0 \\ 0 & -9\sigma \end{pmatrix} \quad (1.1)$$

よって, モールの応力円は図 1.1 のようになる.

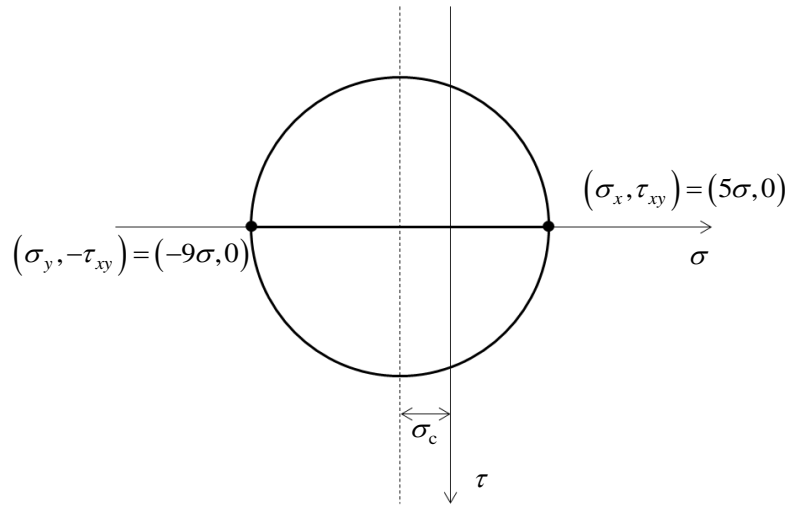


Fig. 1.1 モールの応力円.

また, 図 1.1 よりモールの応力円の中心 $(\sigma_c, 0)$ および半径 r は次のようになる.

$$\sigma_c = \frac{1}{2}(\sigma_x + \sigma_y) = -2\sigma$$

$$(\sigma_c, 0) = (-2\sigma, 0) \quad (1.2)$$

$$r = \frac{1}{2}|\sigma_y - \sigma_x| = 7\sigma \quad (1.3)$$

(2) (1)で描いたモールの応力円より, n - t 座標系における応力テンソル $[\sigma_{ij}]$ を求めよ.

n - t 座標系は x - y 座標系を反時計回りに 60° 回転させたものであるため、モールの応力円上では反時計回りに 2 倍の 120° 回転させればよい。よって、モールの応力円は図 1.2 のように描くことができる。

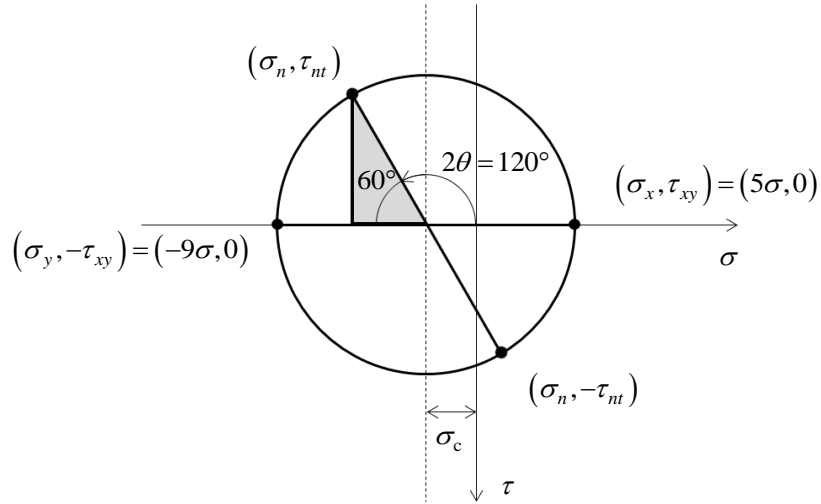


Fig. 1.2 120° 回転させたモールの応力円.

図 1.2 において塗りつぶされた直角三角形を用いて σ_n , σ_t , τ_{nt} を求める。直角三角形の斜辺はモールの応力円の半径より $r=7\sigma$ である。よって、 (σ_n, τ_{nt}) および $(\sigma_t, -\tau_{nt})$ の座標はそれぞれ以下の式で与えられる。

$$\begin{aligned}
 (\sigma_n, \tau_{nt}) &= \left(\sigma_c - \frac{7}{2}\sigma, -\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \right) \\
 &= \left(-2\sigma - \frac{7}{2}\sigma, -\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \right) \\
 &= \left(-\frac{11}{2}\sigma, -\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \right)
 \end{aligned} \tag{1.4}$$

$$\begin{aligned}
(\sigma_t, -\tau_{nt}) &= \left(\sigma_c + \frac{7}{2}\sigma, \frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \right) \\
&= \left(\frac{3}{2}\sigma, \frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \right)
\end{aligned} \tag{1.5}$$

式(1.4), (1.5)より, n - t 座標系における応力テンソル $[\sigma_{ij}]$ は次のようになる.

$$[\sigma_{ij}] = \begin{pmatrix} \sigma_n & \tau_{nt} \\ \tau_{nt} & \sigma_t \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -\frac{11}{2}\sigma & -\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \\ -\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma & \frac{3}{2}\sigma \end{pmatrix} \tag{1.6}$$

(3) x, y 方向のひずみ $\varepsilon_x, \varepsilon_y$ とせん断ひずみ γ_{xy} をそれぞれ σ, E, ν を用いて表せ.

平面応力状態を仮定しているため, 応力-ひずみの関係式から x - y 座標系における垂直ひずみ $\varepsilon_x, \varepsilon_y$ とせん断ひずみ γ_{xy} はそれぞれ以下のように表される.

$$\varepsilon_x = \frac{1}{E}(\sigma_x - \nu\sigma_y) \tag{1.7}$$

$$\varepsilon_y = \frac{1}{E}(\sigma_y - \nu\sigma_x) \tag{1.8}$$

$$\gamma_{xy} = \frac{\tau_{xy}}{G} \tag{1.9}$$

式(1.7), (1.8), (1.9)に $\sigma_x=5\sigma, \sigma_y=-9\sigma, \tau_{xy}=0$ を代入すると x - y 座標系における垂直ひずみ $\varepsilon_x, \varepsilon_y$ とせん断ひずみ γ_{xy} はそれぞれ以下ようになる.

$$\begin{aligned}
\varepsilon_x &= \frac{1}{E}\{5\sigma - \nu \cdot (-9\sigma)\} \\
&= \frac{\sigma}{E}(5 + 9\nu)
\end{aligned} \tag{1.10}$$

$$\begin{aligned}
\varepsilon_y &= \frac{1}{E}\{(-9\sigma) - \nu \cdot 5\sigma\} \\
&= -\frac{\sigma}{E}(9 + 5\nu)
\end{aligned} \tag{1.11}$$

$$\begin{aligned}\gamma_{xy} &= \frac{0}{G} \\ &= 0\end{aligned}\tag{1.12}$$

(4) x - y 座標系におけるひずみテンソルからモールのひずみ円を描き、その中心と半径を求めよ.

式(1.10), (1.11), (1.12)より x - y 座標系におけるひずみテンソル $[\varepsilon_{ij}]$ は次のようになる.

$$[\varepsilon_{ij}] = \begin{pmatrix} \varepsilon_x & \frac{\gamma_{xy}}{2} \\ \frac{\gamma_{xy}}{2} & \varepsilon_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \frac{\sigma}{E}(5+9\nu) & 0 \\ 0 & -\frac{\sigma}{E}(9+5\nu) \end{pmatrix}\tag{1.13}$$

式(1.13)をもとにモールのひずみ円を描くと図 1.3 のようになる.

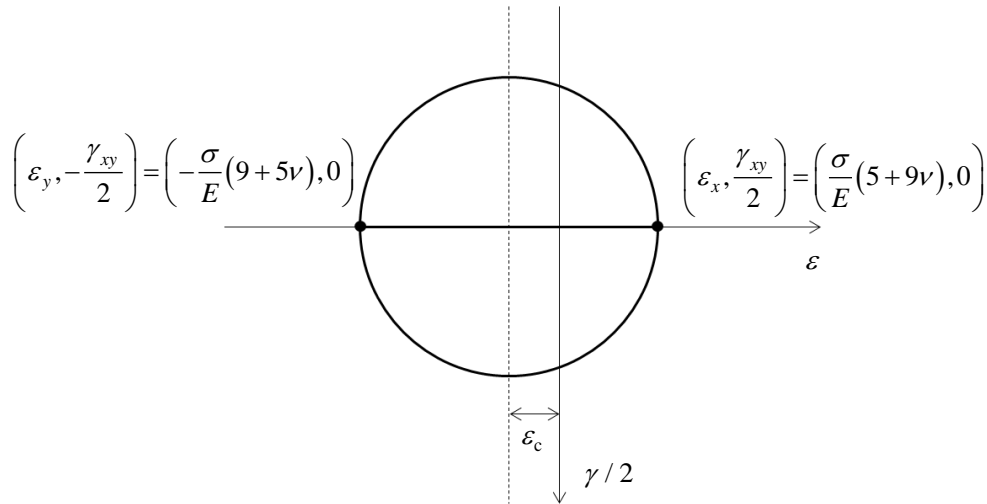


Fig. 1.3 モールのひずみ円.

また, モールのひずみ円の中心 $(\varepsilon_c, 0)$ および半径 r は次のようになる.

$$\begin{aligned}\varepsilon_c &= \frac{1}{2}(\varepsilon_x + \varepsilon_y) = \frac{2\sigma}{E}(-1+\nu) \\ (\varepsilon_c, 0) &= \left(\frac{2\sigma}{E}(-1+\nu), 0 \right)\end{aligned}\tag{1.14}$$

$$r = \frac{1}{2}|\varepsilon_y - \varepsilon_x| = \frac{7\sigma}{E}(1+\nu)\tag{1.15}$$

モールの応力円と同様, モールのひずみ円上で反時計回りに $2\theta=120^\circ$ 回転させると図 1.4 のようになる.

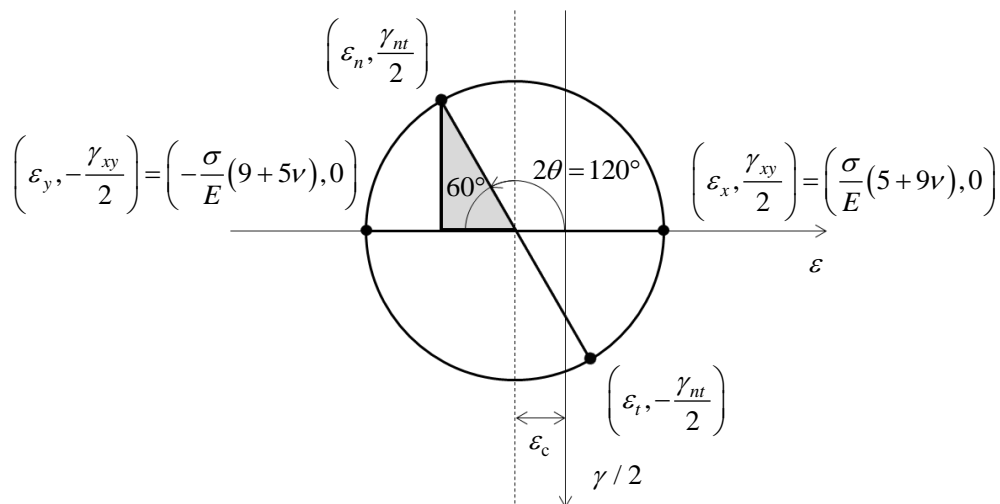


Fig. 1.4 120° 回転させたモールのひずみ円.

図 1.4 において塗りつぶされた直角三角形を用いて ε_n , ε_t , $\gamma_{nt}/2$ を求める. 直角三角形の斜辺はモールのひずみ円の半径より $r=7\alpha(1+\nu)/E$ である. よって, ε_n , ε_t , $\gamma_{nt}/2$ はそれぞれ以下の式で与えられる.

$$\begin{aligned}\varepsilon_n &= \varepsilon_c - \frac{7\sigma}{2E}(1+\nu) \\ &= \frac{2\sigma}{E}(-1+\nu) - \frac{7\sigma}{2E}(1+\nu) \\ &= -\frac{\sigma}{2E}(11+3\nu)\end{aligned}\tag{1.16}$$

$$\begin{aligned}\varepsilon_t &= \varepsilon_c + \frac{7\sigma}{2E}(1+\nu) \\ &= \frac{\sigma}{2E}(3+11\nu)\end{aligned}\quad (1.17)$$

$$\frac{\gamma_{nt}}{2} = -\frac{7\sqrt{3}\sigma}{2E}(1+\nu) \quad (1.18)$$

したがって、 n - t 座標系におけるひずみテンソル $[\varepsilon_{nt}]$ は次のようになる。

$$[\varepsilon_{ij}] = \begin{pmatrix} \varepsilon_n & \frac{\gamma_{nt}}{2} \\ \frac{\gamma_{nt}}{2} & \varepsilon_t \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -\frac{\sigma}{2E}(11+3\nu) & -\frac{7\sqrt{3}\sigma}{2E}(1+\nu) \\ -\frac{7\sqrt{3}\sigma}{2E}(1+\nu) & \frac{\sigma}{2E}(3+11\nu) \end{pmatrix} \quad (1.19)$$

(6) n - t 座標系におけるせん断応力 τ_{nt} とせん断ひずみ γ_{nt} の関係を踏まえ、横弾性係数 G を E , ν を用いて表せ。

n - t 座標系において、せん断応力 τ_{nt} およびせん断ひずみ γ_{nt} は横弾性係数 G を用いて以下のように表される。

$$\tau_{nt} = G\gamma_{nt} \quad (1.20)$$

式(1.20)に式(1.6)および式(1.18)より τ_{nt} , γ_{nt} を代入すると次のようになる。

$$-\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma = G \cdot 2 \left\{ -\frac{7\sqrt{3}\sigma}{2E}(1+\nu) \right\} \quad (1.21)$$

これを整理すると、

$$\begin{aligned} G &= -\frac{7\sqrt{3}}{2}\sigma \left\{ -\frac{E}{7\sqrt{3}\sigma(1+\nu)} \right\} \\ &= \frac{E}{2(1+\nu)} \end{aligned} \quad (1.22)$$

となる。

- [2] 板厚が十分に薄い弾性体表面のある点での応力状態を求めるため、図 2 に示すような 45° 傾けた三軸ひずみゲージを貼り付けた。それぞれのひずみゲージから測定した値は $\varepsilon_x=150\mu$, $\varepsilon_y=-50\mu$, $\varepsilon_{45^\circ}=-50\mu$ ($\mu=1.00\times 10^{-6}$) であった。この弾性体の縦弾性定数 $E=91.0$ GPa, ポアソン比 $\nu=0.3$ とし以下の設問に答えよ。ただし、回転方向は反時計回りを正とし、必要であれば $\sqrt{2} = 1.41$ を用いて、有効数字 3 桁 で解答せよ。

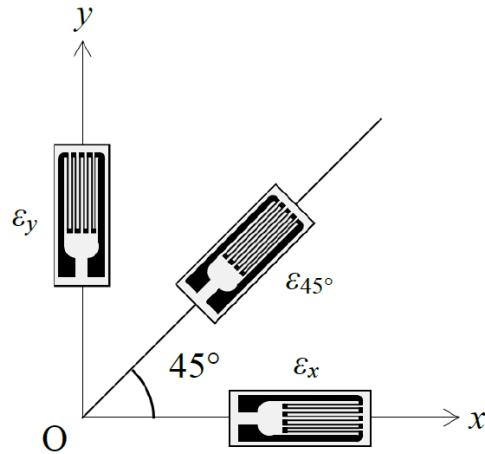


Fig.2 三軸ひずみゲージ模式図

- (1) (i) 各ひずみゲージの値とひずみの座標変換式より、せん断ひずみ γ_{xy} を求め、 x - y 座標系におけるひずみテンソル $[\varepsilon_{ij}]$ を求めよ。
(ii) 求めたひずみテンソルより、モールのひずみ円を描き、その中心と半径を示せ。
- (2) 前問で描いたモールのひずみ円より、主ひずみ (ε_1 , ε_2) および主ひずみ方向 (θ_1 , θ_2) を求めよ。ただし、 $-90^\circ \leq \theta_1, \theta_2 \leq 90^\circ$ とする。
- (3) 応力-ひずみの関係式より、主応力 (σ_1 , σ_2) を求めよ。
- (4) 板厚方向のひずみ ε_z を求めよ。ただし、 $\sigma_x + \sigma_y = \sigma_1 + \sigma_2$ であることを用いてよい。

※ひずみの座標変換式

$$\varepsilon_\theta = \varepsilon_x \cos^2 \theta + \varepsilon_y \sin^2 \theta + \gamma_{xy} \sin \theta \cos \theta$$

※応力-ひずみの関係式

$$\sigma_1 = \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_1 + \nu \varepsilon_2), \quad \sigma_2 = \frac{E}{1-\nu^2} (\varepsilon_2 + \nu \varepsilon_1)$$

(1)(i) 各ひずみゲージの値とひずみの座標変換式より、せん断ひずみ γ_{xy} を求め、 x - y 座標系におけるひずみテンソル $[\varepsilon_{ij}]$ を求めよ.

ひずみの座標変換式は次式で表される.

$$\varepsilon_{\theta} = \varepsilon_x \cos^2 \theta + \varepsilon_y \sin^2 \theta + \gamma_{xy} \sin \theta \cos \theta \quad (2.1)$$

式(2.1)に $\theta = 45^\circ$ を代入すると次式が得られる.

$$\varepsilon_{45^\circ} = \frac{1}{2}(\varepsilon_x + \varepsilon_y + \gamma_{xy}) \quad (2.2)$$

上式に各ひずみゲージで得た値 $\varepsilon_x = 150\mu$, $\varepsilon_y = -50\mu$, $\varepsilon_{45^\circ} = -50\mu$ を代入し, γ_{xy} について整理することでせん断ひずみを算出することができる.

$$\begin{aligned} \gamma_{xy} &= 2\varepsilon_{45^\circ} - (\varepsilon_x + \varepsilon_y) \\ &= 2 \times (-50\mu) - (150 - 50)\mu = -200\mu \end{aligned} \quad (2.3)$$

これより x - y 座標系におけるひずみテンソル $[\varepsilon_{ij}]$ は次のようになる.

$$[\varepsilon_{ij}] = \begin{pmatrix} \varepsilon_x & \frac{\gamma_{xy}}{2} \\ \frac{\gamma_{xy}}{2} & \varepsilon_y \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 150\mu & -100\mu \\ -100\mu & -50.0\mu \end{pmatrix} \quad (2.4)$$

(ii) 求めたひずみテンソルより，モールのひずみ円を描き，その中心と半径を示せ．

(i)より求めた $(\varepsilon_x, \gamma_{xy}/2) = (150\mu, -100\mu)$ ， $(\varepsilon_y, -\gamma_{xy}/2) = (-50\mu, 100\mu)$ をプロットしてモールのひずみ円を描くと図 2.1 のようになる．

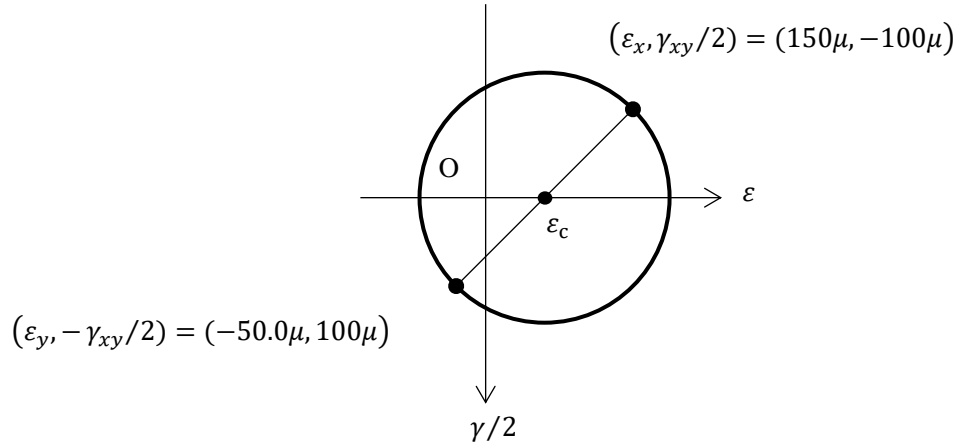


Fig.2.1 モールのひずみ円

中心座標 $(\varepsilon_c, 0)$ ，半径 r は以下のようにして求められる．

$$(\varepsilon_c, 0) = \left(\frac{\varepsilon_x + \varepsilon_y}{2}, 0 \right) = \left(\frac{150\mu - 50\mu}{2}, 0 \right) = (50.0\mu, 0) \quad (2.5)$$

$$\begin{aligned} r &= \frac{1}{2} \sqrt{(\varepsilon_x - \varepsilon_y)^2 + 4 \left(\frac{\gamma_{xy}}{2} \right)^2} \\ &= \frac{1}{2} \sqrt{(150\mu + 50\mu)^2 + 4(100\mu)^2} \\ &= 100\mu\sqrt{2} = 141\mu \end{aligned} \quad (2.6)$$

(2) 前問で描いたモールのひずみ円より，主ひずみ($\varepsilon_1, \varepsilon_2$)および主ひずみ方向(θ_1, θ_2)を求めよ．ただし， $-90^\circ \leq \theta_1, \theta_2 \leq 90^\circ$ とする．

主ひずみ($\varepsilon_1, \varepsilon_2$) および主ひずみ方向(θ_1, θ_2)はモールのひずみ円上において以下の図 2.2 のように表される．

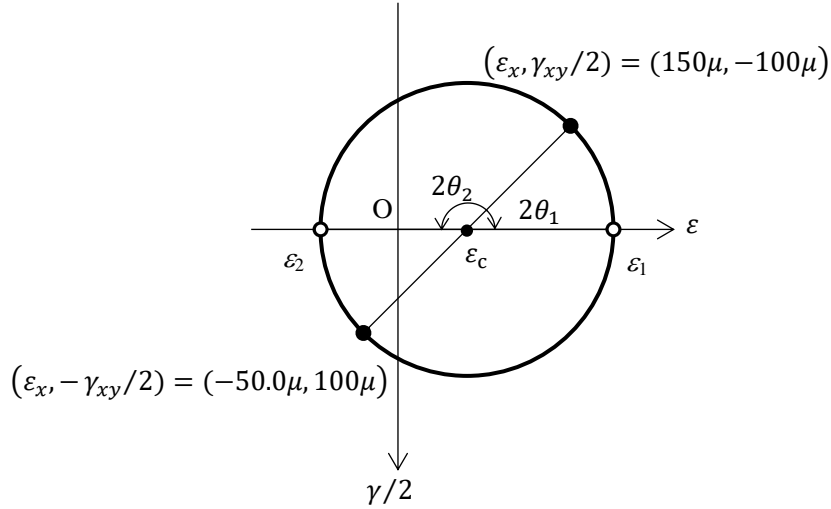


Fig.2.2 主ひずみおよび主ひずみ方向

上図より主ひずみおよび主ひずみ方向は以下のように表される．

$$\begin{pmatrix} \varepsilon_1 \\ \varepsilon_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} \varepsilon_c + r \\ \varepsilon_c - r \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 50\mu + 141\mu \\ 50\mu - 141\mu \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 191\mu \\ -91.0\mu \end{pmatrix} \quad (2.7)$$

$$\begin{aligned} \theta_1 &= -\frac{1}{2} \tan^{-1} \left| \frac{\gamma_{xy}}{\varepsilon_x - \varepsilon_y} \right| \\ &= -\frac{1}{2} \tan^{-1} \left| \frac{-200\mu}{150\mu + 50\mu} \right| = -22.5[\text{deg}] \end{aligned} \quad (2.8)$$

主ひずみ方向は直交するので， $\theta_2 = \theta_1 + 90 = 67.5[\text{deg}]$ と得られ，主ひずみ方向は次のように求まる．

$$\begin{pmatrix} \theta_1 \\ \theta_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} -22.5 \\ 67.5 \end{pmatrix} [\text{deg}] \quad (2.9)$$

(3) 応力－ひずみの関係式より，主応力(σ_1 , σ_2)を求めよ．

応力－ひずみの関係式より，主応力 (σ_1 , σ_2) は以下のように求まる．

$$\begin{aligned}\sigma_1 &= \frac{E}{1-\nu^2}(\varepsilon_1 + \nu\varepsilon_2) \\ &= \frac{91 \times 10^9}{1-0.3^2} \times \{191 + 0.3 \times (-91)\} \times 10^{-6} = 16.4 [\text{MPa}]\end{aligned}\quad (2.10)$$

$$\begin{aligned}\sigma_2 &= \frac{E}{1-\nu^2}(\varepsilon_2 + \nu\varepsilon_1) \\ &= \frac{91 \times 10^9}{1-0.3^2} \times (-91 + 0.3 \times 191) \times 10^{-6} = -3.37 [\text{MPa}]\end{aligned}\quad (2.11)$$

よって，

$$\begin{pmatrix} \sigma_1 \\ \sigma_2 \end{pmatrix} = \begin{pmatrix} 16.4 \\ -3.37 \end{pmatrix} [\text{MPa}]\quad (2.12)$$

(4) 板厚方向のひずみ ε_z を求めよ．ただし， $\sigma_1 + \sigma_2 = \sigma_x + \sigma_y$ であることを用いてよい．

平面応力状態より $\sigma_z = 0$ であることに注意すると，応力－ひずみの関係式より板厚方向のひずみは次のように求まる．

$$\begin{aligned}\varepsilon_z &= \frac{1}{E} \{ \sigma_z - \nu(\sigma_x + \sigma_y) \} \\ &= -\frac{\nu(\sigma_1 + \sigma_2)}{E} \\ &= -\frac{0.3 \times (16.4 - 3.37) \times 10^6}{91 \times 10^9} \\ &= -43.0 \mu \text{ (or } -4.30 \times 10^{-5})\end{aligned}\quad (2.13)$$